

学位論文要旨	
氏名	ミン アン ウイン
題目	ベトナム・メコンデルタにおける持続的なエビ養殖産業の実現と課題に関する研究 (A Study on the Establishment of Sustainable Shrimp Farming Industry and Its Challenges in the Mekong Delta, Vietnam)
<p>ベトナムのエビ養殖業は1970年代から1990年にかけて劇的な増加を遂げた。メコンデルタがその中心であり、養殖面積の91%、生産量の80%がこの地域に集中している。ここでのエビ養殖は漁家による零細な粗放型、企業による大規模な集約型として発展してきた。しかし粗放的、集約的養殖はいずれも魚病リスクが大きく環境持続性にも問題がある。零細漁家が大多数を占める当該地域においては、このままでは持続可能な発展が期待できない。</p> <p>そこでベトナム政府は新しい養殖形態として統合型養殖を普及させようとしている。統合型養殖とは同一の場所でマングローブの植林を行う「マングローブ・シュリンプ」および水稲栽培を行う「ライス・シュリンプ」のことであり、環境持続性を担保しつつ安定的なエビ養殖経営を実現できる方式として期待されている。しかしその特性や経営実態は明らかではない。また現実には一旦統合型養殖に着業してもそれを放棄して既存養殖形態に戻ってしまう経営体も多く、将来が見通せない状況にある。</p> <p>そこで本研究ではこの地域における2種類の統合型養殖すなわち「マングローブ・シュリンプ」と「ライス・シュリンプ」の現地における実態調査を行い、その特性や実態、課題と今後の展望を明らかにした。</p> <p>マングローブ・シュリンプは①マングローブの定期的伐採と販売による安定的な収入機会の獲得、②オーガニック・シュリンプとしての高い市場評価など、多くの利点があることが明らかとなった。しかし③マングローブ植林面積割合を一定以上に保たねばならないなどの規制があり、エビ生産量を拡大することが困難であることなどの課題も明らかとなった。</p> <p>ライス・シュリンプは①稲が豊作であれば高い収入が得られる、②ベトナムの主食である米を生産でき、食料問題解決に貢献できるという利点があるものの、③天候条件が悪い年には稲作による収入が期待できないこと、④高頻度に発生する塩害により稲作の成績が不安定なこと、⑤薬品使用はないもののオーガニック・シュリンプとしての市場評価を得られていないことなど、多くの課題が明らかとなった。</p> <p>また双方とも低投資で着手が可能であり、魚病リスクも小さいこと、薬品等の使用が少なく、環境持続的であることも明らかとなった。</p> <p>こうした調査結果の分析により、両者を比較した場合、現在の段階ではマングローブ・シュリンプが当地域においてより適合的であることが明らかとなった。また今後マングローブ・シュリンプを拡大させるためには植林面積割合の規制緩和が必要であること、ライス・シュリンプを拡大させるためには十分な灌漑施設の設置や耐塩性の高い水稲品種の開発、オーガニックシュリンプとしての市場評価の獲得が必要であることを明らかにした。</p>	